

肉用牛の改良増殖目標（現行）

農 林 水 産 省

2 肉用牛

(1) 改良目標

肉用牛生産の拡大と生産コストの低減、消費者ニーズに合った牛肉生産に資するため、生産性及び肉質の向上と斉一化に重点を置いた遺伝的能力の改良の推進と併せて飼養管理の改善を図ることとし、能力等に関する目標を次のとおりとする。

① 能力

ア 部分肉歩留りの高い良質な牛肉の安定的生産を図るため、品種特性に応じた肉質を考慮して肥育期間の短縮を図るとともに、個体の能力に応じた効率的な肥育に努めるものとする。

去勢肥育牛の能力に関する目標数値

	品 種	肥 育 終 了 時		1 日 平 均 増 体 量
		月 齢	体 重	
現 在	黒 毛 和 種	か月 30.0	kg 680	kg 0.65
	褐 毛 和 種	24.0	745	1.00
	日 本 短 角 種	23.0	670	0.90
	乳 用 種	22.0	755	1.05
目 標 (22年度)	黒 毛 和 種	24-25	670-685	0.85
	褐 毛 和 種	22-23	710-730	1.05
	日 本 短 角 種	19-20	650-675	1.10
	乳 用 種	17-18	735-760	1.40

注：本目標値に係る中心となる枝肉規格は、黒毛和種A3～A4、褐毛和種A3、日本短角種A2、乳用種B2～B3である。

イ 繁殖能力及び哺育能力に優れ、強健で粗飼料利用性及び放牧適性の高いものとし、一年一産をめざして生産率の向上に努めるものとする。

繁殖能力に関する目標数値（全国平均）

	初産月齢	分娩間隔
現在	か月 25	か月 13.3
目標（22年度）	24	12.5

② 体型

体型については、体積の増大に努めることとするが、過大や過肥は避け、飼養管理の容易なものにする。

体型に関する目標数値（全国平均）

	品 種	体高	胸囲	かん幅	体重
		cm	cm	cm	kg
現在	黒毛和種	129	184	46	455
	褐毛和種	133	189	48	545
	日本短角種	132	200	50	560
目標 （22年度）	黒毛和種	130	192	47	520
	褐毛和種	134	200	50	600
	日本短角種	132	205	52	590

注：1）数値は、成熟時の雌のものである。

2）体重は、適度な栄養状態にある牛のものである。ただし、分娩前後を除く。

3）高知系の褐毛和種及び無角和種については、黒毛和種に準ずる。

③ 改良手法

ア 的確な遺伝的能力の評価に基づく計画交配と広域的な産肉能力検定を推進し、優れた種雄牛の作出と有効利用に努めるものとする。

種雄牛の能力に関する目標数値（間接検定、全国平均）

	品 種	1 日平均 増 体 量	1 kg増体当 たりTDN量	脂肪交雑
現 在	黒毛和種	0.89 kg	6.6 kg	BMS No. 7.5
	褐毛和種	0.98	6.8	5.9
	日本短角種	1.16	6.2	2.6
目 標 (22年度)	黒毛和種	0.95	6.4	8.3
	褐毛和種	1.05	6.3	6.7
	日本短角種	1.20	5.9	3.0

イ 遺伝的能力評価に基づく改良基礎雌牛群の整備、優良雌牛の増殖等を推進し、雌側からの改良の促進に努めるものとする。

ウ 多様な遺伝的特性を有する育種資源の確保・利用に努めるものとする。

エ 優良種牛の効率的な生産、利用を図るため、各種生産情報の収集・分析体制の整備、受精卵移植、DNA解析等新技术の開発、活用に努めるものとする。

④ その他

ア 遺伝的能力を十分に発揮させるため、子牛への十分な粗飼料給与に努めるものとする。

イ 遺伝的不良形質の早期発見及びその検査方法等の早期確立を図るとともに、遺伝的不良形質の保有状況、経済的得失等に即した適切な対処を行うこととし、情報公開に努めるものとする。

ウ 畜産環境の改善に係る飼養管理技術の向上等に努めるとともに、家畜排せつ物の適正な処理とその利用を推進する。

(2) 増殖目標

繁殖雌牛の増頭を図るとともに、能力に応じた乳用雌牛の選択的利用により、受精卵移植を用いた肉専用種生産、交雑種生産等を推進することとし、総頭数は317万頭とする。